

大島町郷土資料館

交通及び案内図

大島町郷土資料館（東京都大島町元町字地の岡）

船の利用

竹芝港より高速船（1時間45分）

大型船（夜出発⇒翌朝着）

熱海港より高速船（45分）

※当日の海上模様により入港地が変わります。

飛行機の利用

羽田空港より35分（ANA）

調布飛行場より30分（新中央航空）

現地での交通

元町港より大島公園ラインバス

大島公園行き『郷土資料館入口』下車徒歩5分

（バス停付近に案内表示があります。）

※タクシー、レンタカーもあります。



大島の一般的な家屋

現在の郷土資料館には江戸末期の文久元年（1861）建築の民家が移築、復元されています。周囲の石垣とともに茅葺き屋根の母屋（オーヤ）、隠居（インキョ）、ウマゴヤ（牛小屋。牛舎であっても『ウマゴヤ』と呼んでいた。）、チョーズバ（外便所）の4棟があり、昭和初期頃の一般的な島の民家としてのたたずまいを残しています。

その中でも母屋は、三五家屋（通称：さんごのいえ）といわれる間口5間（9m）、奥行3間（5.4m）、建坪約15坪が当時の大島での標準住居と言われています。

今年1月には、長年の雨風を受け、痛んでいた母屋の茅葺き屋根の補修作業を実施しました。八丈島から茅葺き職人を招き、住民も参加協力し、職人の手ほどきを受けながら作業をおこないました。また地元有志による建物保存維持のための煙による燻し作業もおこなわれています。



茅葺き屋根補修後の母屋

民俗文化財の展示

大島郷土資料館内には、大島の成立、歴史、民俗の3つのテーマに分けて、三原山噴火の溶岩や大島内から集めた民具（農業、漁業、畜産関係など）や生活用品、着物などの品々や、島の風習、各地区の祭礼で着用された衣装とその模様を写真で紹介したものの展示などを行っています。

また有形文化財に指定されている平安末期、鎌倉、室町時代の銅鏡4面や天文21年（1552）9月の三原山噴火の鎮静を祈念したことを記した大島最古の文献と言われる木札、平安時代に制作されたと言われるヒノキ材一木造りの立像7軀の展示もあり、これらは東京文化財ウィークにも今回新規公開事業として参加しました。また管理人による展示品の説明や大島の歴史の話なども聞くこともできます。



小袖2領（東京都指定）の特別展示

問い合わせ先

大島町教育委員会 教育文化課社会教育係
電話 04992-2-1453